

令和元年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和元年7月19日(金) 午後1時30分 開会

2 開催場所 丹波市柏原住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
本間和典	委員	蘆田長門	委員
足立利昌	委員	中辻剛	委員
中川武	委員 [代理]	富田和彦	委員 [代理]
石田光	委員	藤浦俊行	委員
瀬川雅史	委員	永井正伸	委員
山田吉晴	委員	長田貴	委員
畑幸一	委員	太田嘉宏	委員

委員 16名出席

(オブザーバー) 三宅豊文

(デマンド(予約)型乗合タクシー運営者) 藤本泰男

4 欠席者 中澤秀明 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

(1) デマンド交通の状況分析について

(2) 路線バスの利用状況について

(3) 平成30年度の実施事業及び決算について

(4) 令和元年度の事業案及び予算案について

(5) 令和元年7月のバス路線再編後における公共交通体系について

(6) 福祉による移動施策について

(7) その他

4) 閉 会

(事務局)

第1回丹波市地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。私は事務局を担当しております丹波市未来都市創造部都市創造課長の藤浦と申します。本日の全体の進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。本日、委員の皆様には大変お忙しい中ご出席いただき誠に有難うございます。また本委員会の再任につきましてご承諾をいただきましたこと厚くお礼を申し上げます。本年度から2年間、本会の委員としてお世話になりますけれども、よろしくお願いいたします。

なお、再任でございますので、会長、副会長、監査員の役員につきましても引き続きお世話になりたく存じますのでご理解賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは令和元年度第1回の開催でございますので、今回の委員の皆様をご紹介させていただきます。

[委員名簿により各委員を紹介]

(事務局)

本日、事務局等、市関係者も多数出席しております。それぞれにつきましては説明等発言の際に自己紹介させていただきます。それでは以降の進行につきましては北川会長にお願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。北川でございます。よろしくお願いいたします。再任ということなので、またこのメンバーで新しく取り組んでいきたいと思っております。元号が令和に変わりまして、ここは気分を新たによりしくお願いしたいと思います。今年度も色々と宿題等々もありますし、これから考えていけないといけないことも結構あり、今日は後で色々な提案もあると伺っております。よろしくお願いいたします。

まずは皆様にお知らせですが、JR福知山線丹波市内全駅で2021年春からICOCAが使えるようになります。前回の会議の終わりぐらいに早く使えたらいいですねと話をしていましたが、先週に使えるようになりますという発表があったようです。これからキャッシュレス社会が進む等、利便性も高まります。今後こういうことが一つの起爆剤みたいになって、交通軸をどう考えるかということにもなっております。2021年の春からと発表がありましたので、もう少し先かもしれませんが、これから期待したいと思っております。

それでは議事を進めます。まずはデマンド交通の状況分析について説明を事務局お願いします。

[デマンド交通の状況分析について説明 資料：別紙1～別紙15]

(会長)

有難うございました。昨年度の総括も含めてご説明いただきました。お亡くなりになられた方で、相当デマンドタクシーをご利用いただいていた方々がお亡くなりになったこともあり、利用者数も減少し、全体の利用回数も減ってきたという状況です。それから、70代の方にもっと使っていただきたいというお話もあったかと思います。昨今高齢のドライバーによる交通事故の話もあるので、無理して自動車を運転しなくてもデマンドタクシーを使っての移動も可能ですよという風な、そういう展開とかも含めて、今後検討しなければならないこともありそうだと、今回のご報告を聞いて思いました。ですから、新登録者数を伸ばすことと、リピーターを増やすことを考えなければならないと思います。

その他皆様の方から、お気づきのところや、何かもう少しこうすればいいのではないかという提案や、なんでこうなっているのかという質問があるのではないかと思います。

何かございましたら伺いいたします。

(委員)

非常に詳細なご報告有難うございます。この中で、60歳代から90歳代の方々に多くご利用いただいているようですが、一方で51ページの6番目に若年層の登録が少ないと書かれています。確かに利用者の中で若年層の利用が少ないのですが、高齢の方でまだデマンドタクシーを利用されていない方に対するの対策と同時に、若年層の方に対して、利用者を増やしていく計画や考えがあれば教えてください。

(事務局)

一昨日、夏休み前に丹波市内の高校3校に依頼し、夏休み期間中のクラブ活動や、塾への行き帰りにおける利用を呼び掛けるため、デマンドタクシーへの登録チラシを配布いたしました。こういった活動により、若年層の利用促進を図っております。

(会長)

あと、私の経験ですが、親子連れでの利用も視野に入れ、関係の部署との連携を図りながら検討いただければと思います。特に子どもの利用が増えると保護者の利用増加にもつながると思います。その他いかがでしょうか。

(委員)

48 ページのお出かけ先別集計表の中で説明があったように、商店の区分にはショッピングセンター等での飲食も含まれるであろうという話がありました。公共施設の区分では文化活動も含んでいるという話もございました。福祉施設の区分に該当する施設は具体的にどのような施設でしょうか。例えばデイサービス施設等が考えられますが、デイサービス施設は利用者の送迎をされていると思いますので、デイサービス施設の利用者がデマンドタクシーを利用される機会は多くないと考えますが、どのような福祉施設でしょうか。

(委員)

私はデマンドタクシーの運転手もしています。氷上町には青葉荘等があり、老人ホーム入所者の利用が多くあります。施設へお迎えに行き、施設の職員さんと利用者が一緒にデマンドタクシーを利用されています。自分で行動できる方のご利用が多いと思います。

(会長)

情報提供有難うございます。その他よろしいでしょうか。

それでは次に、路線バスの利用状況について報告して下さい。

[路線バスの状況分析について説明 資料：別紙 16～別紙 17]

(会長)

有難うございます。今回の報告は、令和元年7月1日のバス路線再編前の状況です。これにつきまして何かご質問はありませんか。

神姫グリーンバスより昨年度の総括をお願いできますか。

(委員)

神姫グリーンバスです。この表は年間の利用者数を示しています。傾向といたしまして、やはり自然減の傾向が続いているのではないかと思います。通学や通勤、通院でのバス利用がありますが、その中でも通学生の減少と、高齢の方でも自動車に通院される方が多いと思います。昔はもう少し高齢の方がバスを利用されていたのですが、自動車を運転される高齢者の方が増えたと感じています。

しかし、平成31年4月から丹波市の路線バス通学定期券購入補助制度や、路線バス乗車券購入助成事業もあり、路線バス利用増進を図りたいと思っています。そして本年7月の丹波医療センター開設に合わせバス路線を再編し、丹波医療センターにバスが乗り入れています。山南地域から直接丹波医療センターへ乗り入れる路線もあり、その新路線の効果も出

てくれればと期待しています。

そして7月8日から1週間程度の乗降調査を2回予定しておりますが、現状としては柏原駅や、石生駅から路線バスを利用されている方が比較的多いと感じております。それと病院の職員の方にもご利用いただいております。

(会長)

それでは次に進みます。

まずは、平成30年度の実施事業と決算の説明をお願いします。

[平成30年度実施事業及び決算について説明 資料：別紙18～別紙20]

(会長)

有難うございます。では、監査員から監査報告をお願いします。

(監査委員)

それでは只今より監査報告を行います。令和元年5月16日、監査員2名により、平成30年度会計情報及び収支決算書につきまして通帳、帳簿並びに関係書類を確認いたしました結果、適正かつ正確な処理がなされておりましたことを認め、ここにご報告を申し上げます。

(会長)

有難うございます。

それでは次に、令和元年度の事業案及び予算案についてご説明をお願いします。

[令和元年度実施事業案及び予算案について説明 資料：別紙21～別紙22]

(会長)

有難うございます。前年度より予算規模が大きくなっています。

比べると「てくてくたんば」を全戸配布するため、印刷部数が増えたことがあげられます。

本年度の事業案及び予算案についてご質問等はございませんか。

(委員)

令和元年度事業(案)について、丹波市クールアースデー実行委員会が実施するノーマイ

カー通勤運動に協賛するとあります。毎月 22 日のノーマイカー通勤運動は市当局も取り組んでおられると思いますので、市職員の実績が分かっていたら教えてください。

(事務局)

昨年度の実績につきましては、まだ現時点で確認ができていません。申し訳ありませんが次回の会議でご報告させていただきます。

(会長)

皆で協力しあってシェアしていただくようお願いします。

その他ありませんか。それでは本年度の事業案と予算案について承認いただくということによろしいでしょうか。

異議がないようですので、令和元年度の事業案及び予算案については承認されました。

それでは次の議題に進みます。次は 5 番目の令和元年 7 月のバス路線再編後における公共交通体系についてです。丹波医療センターの開院から 1 週間経ちました。バス事業者には先ほどお話いただきました。タクシーも気になるところがあるので、タクシーの送迎について教えていただければと思います。

(委員)

それではタクシーの方からご報告いたします。丹波医療センターには 7 月の 1 日から入らせていただいていますけれども、患者の受け入れは 7 月 8 日からだったので、データの方はまだありません。それまでに開院に向けての工事業者さんの交通手段として、開院準備に携わっている方にご利用いただいているように感じます。

7 月 8 日以降については、かなり路線バスの方が充実していると思います。私もたまにドライバーとしてタクシーに乗り、医療センターのタクシー乗り場に停めることがあるのですが、路線バスから乗り降りされる方も、工事業者さんが多いと感じます。開院後の 1 週間は患者さんのバスの利用が今までよりは増えているのではないかと思います。

また、タクシーに関しましては、今までは柏原駅から県立柏原病院及び柏原赤十字病院へのご利用が多くありましたが、これからは患者さんが新しい病院を利用することに慣れられてから、タクシーの利用も増えるのではないかなと感じております。

(会長)

有難うございます。これからのことですのでよろしく願いいたします。また教えてください。今のバス事業者さんとタクシー事業者さんの報告について何か質問はございませんか。引き続き注視しなければいけないということですね。

それでは、続いて 7 月のバス路線再編後における公共交通体系についての課題なのですが、まず事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

丹波市の公共交通体系の在り方につきましては、平成22年3月策定の丹波市地域公共交通総合連携計画により、地域間(旧町域)を結ぶ基幹交通としてJRと路線バスを位置づけ、デマンドタクシーは生活圏域(旧町域内)での身近な生活交通手段として位置づけ、普通タクシーは指定した時間に指定した場所へドア to ドアで行ける最も便利な交通手段として、それぞれ目的に応じ連携した利活用が図られるよう、公共交通の運行維持に努めています。

本年7月より県立柏原病院と柏原赤十字病院が統合し、新たに市の中心部に場所が変更されることと併せ路線バスの再編を行い、デマンドタクシーと鉄道、路線バス、普通タクシーを利用し、丹波医療センターへのアクセスを可能にしました。

また、新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」においては、将来目指す都市機能の一定の集積と住み慣れた地域で住み続けるという二つの方向性は、公共交通の充実によって成り立つと位置づけられています。

これらのことから、今年度からは、丹波市公共交通ガイド「てくてくたんば」を全戸配布することで、デマンドタクシーの新たな登録者や利用者の確保とともに、公共交通全般の利用増進にも努めております。

しかし一方では、デマンドタクシーの地域(旧町域)を超えての運行や、市内全域から丹波医療センターへの直行等、さらなる利便性を求める意見もあります。

このことにつきましては、平成23年度に丹波市議会からデマンドタクシーの運行範囲を含む新病院への乗り入れに関する提言を受け、平成25年7月に丹波市地域公共交通活性化協議会としての協議結果を、丹波市長あてにご報告いただいた経過がございます。

市としましては、冒頭に申し上げましたように、地域公共交通総合連携計画に基づく、今の公共交通体系が、丹波市において適切であると考えているところですが、本年7月1日のバス路線再編に合わせ、今一度公共交通会議で再確認をいただきたいと思っております。

つきましては、市民の生活圏域での通院や買い物等、身近な生活交通手段として定着している、また、基幹交通との連携に欠かすことのできない交通手段として定着しているデマンドタクシーの運行範囲を含め、今後の丹波市における公共交通の全体最適について、公共交通会議に諮り、ご意見を賜りたいと考えますので、よろしく願いいたします。

このあと、皆様からのご意見をいただきたいと思っておりますが、本日は主に市からのご依頼とさせていただき、2回目以降の交通会議を経て、できれば本年度中に一定の方向性をお示しいただくことができればありがたいと考えております。

(会長)

有難うございます。平成25年に一度お答えをしたことがあり、結局何を言ったかと言いますと、そもそも公共交通というのは連携して始めて成り立つもので、路線バスは路線バスの役割があって、タクシーはタクシーの役割があり、鉄道は鉄道の役割があって、デマンドタクシーはデマンドタクシーの役割があるということです。デマンドタクシーは、今日の状

況分析報告を見ても分かりますが、かなりご高齢の方の生活を支援する乗り物であるという点をまず意識しないといけないという点です。

それから、その時に言ったのが、デマンドタクシーの運行範囲を引き伸ばし過ぎると他の公共交通に影響が出るのではないかという懸念もありました。そうすると、路線バスが走らなくなるとか、鉄道や、タクシーも運行をやめるとか、そんな話になりはしないかという懸念があるということです。

また、何より医療関係は掛かりつけのお医者さんをもっと大事にしましょうと言いながら、後でいきなり大病院ができたからそちらに行ってほしいというのは、何かちょっとどうなのかと話をした記憶もあります。

今回ですとデマンドタクシーの利用状況を見ると、1日5～6便で1時間に1便の運行を必ず確保するという、公共交通的な役割が大事だと思います。それが運行範囲を伸ばすとおそらく1時間に1便を確保することができなくなります。それは困るということで、他の公共交通機関と連携するのが大事だということです。

今回のバス路線再編では、丹波医療センターに行くバスを多く確保しようという考え中で、丹波市において公共交通の全体最適という話がありますから、公共交通全体の最適を考えて協議会の中で考えなければならないことだと思います。

ただ、今は公共交通の均衡が保たれておりますので、すぐに何かをどうしようかという話もあると思いますが、今日は答えを出しませんが、何か公共交通の連携についてのお考えや、アイデア、見直しというのも大事ですから、どんな見直しが考えられるのか、何かそんな意見交換ができればという主旨の事をおっしゃっていただいたのではないかと思いますので、ご意見をいただきたいと思います。

公共交通の再編の話もそうだと思いますし、公共交通体系についてのお考えや、何かご意見がありましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

鴨庄のNPOで鴨庄ふれあいバスを運行しています。現在運行補助金をいただいておりますが、時代の流れで市島地域にあるスーパーが閉店したこともあり、利用者減少等により赤字の状態で開催しています。

ふれあいバスの限られた運行範囲では、日常の買い物に行く店舗が無くなったりすると、バスを持っていますが買い物に行ける所がなくなります。時代の流れだと思いますが、そういう店舗や大きな病院等への動きも若干考えておかないといけないという思いもあり、デマンドタクシーの運行範囲ももう少し柔軟性があってもいいのではないかと思います。

それから、自治会の中で話題になるのは、地域公共交通活性化ならば、公共交通にはJRも含んでいるのではないのかということです。市島地域は電車が走っていますが、この「てくてくたんば」のバス路線のページには市島地域が載っていません。

ですので、会議の資料の中に掲載するか掲載しないは別として、JRをどのように利用す

るのか、デマンドタクシーとJRの乗り継ぎ利用のこと等がこの資料の中に出てくるようにしていただきたいと思います。

(会長)

急にスーパーが閉店すると、町の構造が大きく変わるので、それに対して常に何か見直しをかけていくということが必要です。

また、鉄道も盛り込んだ公共交通体系ですから、鉄道の話は反省点であります。デマンドタクシーのことばかりではないかというご意見であります。もっともなお話なので、また次回は鉄道の話等も少し整理してお見せいただければと思います。

本日はご意見をいただくだけになるかもしれませんが、その他ありませんか。自治会の中で色々なお話が出てくるのではないかと思います。いかがでしょうか。

(副会長)

先ほどのご意見のように、新しい病院ができてから、それに対する交通アクセスの要望が市島地域の方から出ていることを聞いております。私は自治協議会の代表の立場として、公共交通会議に出席していますので、即決してそれが良いとか悪いというところまでの判断は差し控えておりますが、先ほど会長が言われたように、検討課題とするということが良いのではないかと思います。

(会長)

当時の話になりますが、新しい病院に路線バスが乗り入れる、それをしっかりモニターして、その結果に応じてまた検討しましょうとなっていた記憶があります。

例えば、今回のバス路線再編のポイントは石生駅で、石生駅を中心に路線をかなり充実させました。柏原駅もそうです。

鉄道と路線バスとの連携を考えると、連携の抵抗として料金のことがあるなら、そういうことも考えなければいけないかもしれませんし、タクシーとの連携なら、タクシーの料金減免とかも考えなければいけないでしょうし、交通費が高いのなら、違うところで何か少し安くなれば良い訳なので、そういう風なまちづくりとの連携という話もあろうかと思えます。

新しい病院ができた、だからデマンドタクシーの運行範囲を伸ばせというのは、私は乱暴すぎる話ではないかと思っており、もう少し全体としての公共交通の位置づけの中で、新しい病院への交通手段を提案し、その利用状況を見ながら常に改善し、考えていくというのが良いのではないかと思います。これは私の意見ですから、皆さんのご意見等が大事になってきます。地域の中や地元での実態もとても大事なのではないかと思います。

話が長くなりますが、色々な所で、新しい病院ができるから路線バスをすごく充実させたとか、交通手段を良くしようという話がありますが、お奨めの移動プランとか、こうやればかなり早く安く行くことができる等あると思えます。

それから、体の不自由な方の移動手段については別の課題として考えないといけないと思います。結論が出るまで2回から3回の会議が必要かもしれませんが、議題としてはそのこともあるかと思います。その他ご意見ありませんか。

(委員)

今日の議題の6番目にある福祉による移動施策について思うのですが、例えば鉄道ですが、車いすに乗られた方は、スロープで対応してくれるという形があります。公共のバス等は、低床バスであるとか、誰もが切れ目なく利用できるという交通システムをどこの地域でも考えていると思います。

タクシーや路線バス、デマンドタクシーが、今持っている機能だけを継続していこうとしているのではなくて、高齢者や障がいのある方等、誰もが利用できてつながるシステムチックな公共交通の理想像を共有化していくことが必要であると思います。

機能が重複していたら悪いのではなくて、重複していることで選択肢が増えるとか、プラス面につながっているという、そういう風な視点というのを共有することが、まず大前提なのではないかと思いました。これは意見の一つとしてお聞きいただけたらと思います。

(会長)

いくつか出てきました。今の時点では、事務局としてはいかがですか。

(事務局)

貴重なご意見を有難うございます。私どもも、本日結果をいただきたいということは思っておりません。委員の皆様には丹波市地域公共交通総合連携計画でありますとか、過去に検討した経緯等の資料を事前にお配りし、また次回に詳しくご協議いただけたらと思います。

それに当たっては先程会長からもありましたように、料金や病院を起点にした移動の手段等について協議いただけたらと思います。

(会長)

それでは、次の議題は福祉による移動施策についてです。これも体系作りの一つになってこようかとは思いますが、事務局より説明をお願いします。

[福祉による移動施策について説明 資料：別紙 24-1]

(会長)

有難うございます。おでかけサポート事業をより良くするために、見直す機会が来たとい

うことだと思えます。そこで、丹波市地域公共交通会議設置要綱第2条3項に交通会議の運営方法その他交通会議が必要と認める事項を協議するとあり、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するとありますから、今回の福祉交通に関しては、設置要綱第8条を踏まえて、別途会議を設置した上で、協議をしていただきたいという、そういうお願いをされたということです。

福祉交通に関する会議を結成して良いかお諮りしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員)

5番目の議題、バス路線再編における公共交通会議についてということと、今議題になっている6番の議題は非常に密接に関連しているので、別々の部会でやる意味があるのかどうか、ちょっと分かりかねるなど思っております。

(会長)

もう少し議題内容を見て考えた方がいいのか、事務局でも検討されて本日の提案ということだと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

ご意見がありましたとおり、丹波市の福祉の分野では、高齢者の交通機関の利用について、ケアマネージャーや市の民生委員等を通して実態を聞くと、生活実態の中でうまく利用できている方とそうでない方もある中で、デマンドタクシーの運行の状況や路線バスや鉄道の使い方を見て、一定の期間を置いた中で整理をしていく必要があると考えております。

今回のこの交通会議の中で協議していただくのと同じような内容になってくると思うのですが、福祉事業について部会にて一度整理をしていただき、その後交通会議にお諮りするというような考えを持っております。

(会長)

私の考えの中でも、福祉のことに特化している件ですから、別の会議の方が良いかもしれないと思えますが、いかがでしょうか。

(委員)

今はおでかけサポートとデマンドタクシーの二つがあるのですが、おでかけサポートを利用するのか、デマンドタクシーを利用するのか当事者は迷っており、今一度整理していただきたいので、部会でどうあるべきかという協議ができればいいと思います。

(会長)

意見が分かれています。今後2年くらいかけて協議しますので、段階に応じてシフトして

いくというやり方もあるのではないかと思います。障がいのある方や高齢の方の交通問題と、全体的な交通問題はやはり違うと思いますので、やはりそれはそれに応じて良く知っている人たちの中で協議しながら、部会の中で議論するというのが大事なのではないかと思います。ですから、私としてはどちらかということの中で話を進めて、全体の交通会議に持ってきてまた議論して、少し手間がかかりますけれども、そういう二段階的なやりの方がよいのかなと思います。

(委員)

全体会の作業部会的な形をとるということですね。

(委員)

普通タクシーと有償運送の小型とは、運行管理者や整備管理者の基準に違いがあります。新制度について積んだらくずし、積んだらくずしという話になって議論が進まないのではないかと思います。新制度が頓挫したということになれば、何のために議論したのかということにもなるので、その辺りをどこで線引きして考えるのかということも少し心配します。

(会長)

最近の福祉交通について分け方みたいなものとか、色々な意見が出ています。例えば交通会議と連動している事例や、また違う事例があると思います。情報提供等あればお願いします。

(委員)

丹波市に福祉交通の関係の運営協議会とかそういったものは、今現在ありますか。

(事務局)

福祉の分野に特化した交通の会議はございません。

(会長)

福祉に特化したものはないということですが、有償運送はあります。

(委員)

なかなか、福祉の分野も一緒に公共交通会議で議論されている所はあまりないと思います。ただ、障がいのある方、高齢者の方も含めて、移動そのものについては、いわゆる公共交通で担って頂くということで、そういった公共交通機関で対応ができない部分に関しては、いわゆる自家用有償運送やおでかけサポート等で対応されているということだと思います。

ます。

そのことを見直すというのであれば、当然まず公共交通機関としてどうするのかという部分が出てきますので、こういった部会で議論していただくというのも一つの方法ではないかなと思います。

(会長)

確かに全国的にあまりやっていないことをやろうとしています。

交通会議という名前が良いのかどうかということもありますが、結局ある程度の作業的な部会でしっかり議論しておいて、それを基に全体の会議の議題として扱っていく方式なのかかなと思います。

今日は全体の交通会議が一旦終わってから、福祉交通について協議するメンバーが集まり、今日出て来た話も含めて、少し何か最初の協議ができればと思いますので、交通会議という名前になるのか部会になるのかということも含めて、今後の進め方等々話をさせていただければと思います。

事務局から何かあると思いますので、事務的な話も含めて都市創造課としていかがですか。

(事務局)

まず、私ども交通会議の事務局の立場からということですが、先程ありました5番の公共交通体系ということが、これから将来に向けての事を検討していく中では、最終的には福祉による移動もその中には包括されていくのかなと考えます。この交通会議の場で、その話を専門的にシステム構築していくに当たっての詳細な検討を行っていけるかと言いますと、このメンバー全員が集まっていたいただいて協議するというのは難しい部分がございます。

できればその前段階として、会長のご発言のように部会的な組織で専門的に検討する機関を設け、そこで検討した結果をこの活性化協議会で再度検討いただくことで、協議がスムーズに行くのではないかなと思っております。

また担当部署についても、福祉は別の部門で今現在担当しております。もちろん一緒に横のつながりの中で進めて行くとはいうものの、福祉の分野が主になって検討してもらう方がよりスムーズに行くのかなという考えもございます。ですので、名称は検討する必要がありますが、部会的な組織で、検討いただけたら有難いと思います。

(会長)

有難うございます。本当にこれからどうやって連携していくのか、縦割りをどう考えていくのかは良いテーマだと思います。とはいえ、確かに進めて行く上では少し難しいかなと思いますので、部会的な役割として何か設置要領等を作って、協議ができないかという事です。皆さんのお手元に資料があると思います。事務局より説明をお願いします。

[丹波市福祉交通会議設置要領について説明 資料：別紙 24-2]

(会長)

基本的にはここにいる委員がほとんど入っているという形です。それから、移動制約者という一つのタイトルをテーマにすると、それを少し専門的に考える方がいいだろうという趣旨なのだと思います。それは特に無理のない話なのではないかと思っております。

決議事項としては、福祉交通に関してこのような別途会議を定めて良いかどうか、それに関して資料や反対意見があるかどうかお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

福祉交通会議ですけれども、これは丹波市地域公共交通会議との関係性はどのようになりますか。

(会長)

会長が選任するということだけでも、確かに分かりづらいですね。

(委員)

公共交通会議の下部組織というような形ですか。

(会長)

そうですね。おそらくそういう形、部会という形になるのだと思いますけれども、その辺りについて事務局からお願いします。

(事務局)

下部組織の上下という関係が表現として正しいかどうか分かりませんが、先程も会長がおっしゃっている通り、作業部会といいますか、それに特化して議論する専門の作業部会というものをイメージしております。

(会長)

要領も組織名称がもう少し変わってくる可能性はあるということですね。

全体の主旨としてはいかがですか。部会で協議を進め、そして交通会議にきちんと上げていきますというような丁寧な手続きを取るという方法を提案していただいております。

私はこれに基づいて設置していいのではないかとと思うのですが、いかがでしょうか。皆さ

ん大体肯定という形ですので、部会を設置して協議しましょうということをお願いいたします。

最後のその他について事務局から何かございましたらお願いしたいと思います。

(事務局)

会長、恐れ入りますがメンバーの選考をお願いいたします。

(会長)

メンバーは、識見を有する人、社会福祉関係者の代表者、運送事業者、運輸管理部関係、丹波市職員からという事ですので、識見を有する人としては私、北川と長田委員ですね。福祉関係者としては社会福祉協議会の山田委員にご協力をお願いしたいと思います。運送事業者としてはグリーンバスの本間委員に引き続きお願いしたいのと、八千代タクシーの蘆田委員とタクシー協会丹波支部長の足立委員にお願いしたいと思います。運輸監理部も是非ご協力をいただきたいと思います。丹波市職員は、未来都市創造部の太田部長と、福祉部の金子部長に入っていたらと思います。それとデマンドタクシーの話もありますので、オブザーバーとして丹波市商工会の藤本事務長にお願いしたいと思います。

この様なメンバーで部会を結成して協議し、それから交通会議に諮ろうと思いますがいかがでしょうか。

よろしいですか。ご意見はないようですので、それでは今日の交通会議終了後に、第1回目の会議を開催したいと思いますのでよろしくお願いします。

最後にその他について事務局からよろしくお願いします。

(事務局)

次の開催日につきましては会長と相談し決定させていただき、皆様にご案内いたします。

(会長)

有難うございました。最後に大野副会長からお願いします。

(副会長)

本日は第1回目の協議会ということで、長時間に渡りまして慎重にご協議いただき誠に有難うございました。議事の終盤にもありました公共交通体系についての宿題を賜っておりますので、また次回協議をさせていただきます。

本日はこれにて終了とさせていただきます。